

令和2年9月1日

生産者 各位

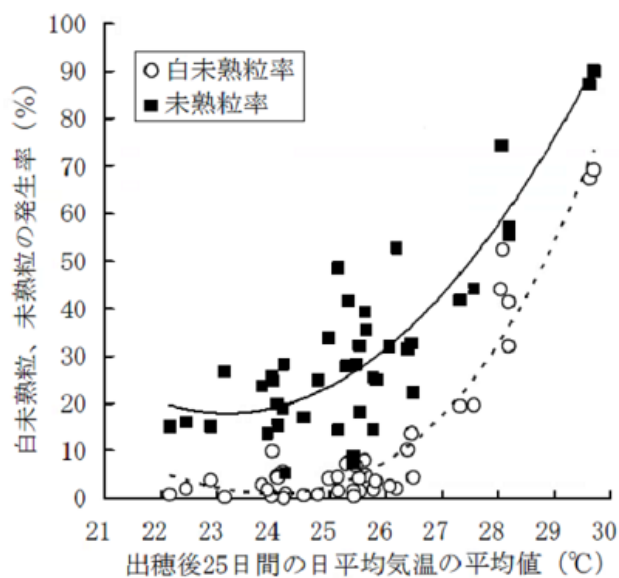
岡山市農業協同組合
営農部 指導課

水稻の今後の管理について

(1) 登熟期の高温による玄米品質への影響について

○ヒノヒカリ

・出穂後25日間の日平均気温の平均値が25℃以上になると白未熟粒の発生が増加する。



「ヒノヒカリ」における出穂後25日間の日平均気温と未熟粒、白未熟粒率の関係

・「白未熟粒」のうち、高温になると「背白粒」や「基部未熟粒」が多くなり、夜温が高いと「充実不足粒」（玄米は扁平、玄米表面の縦溝が深いなど）や粒重の低下が発生する。

整粒	白未熟粒				
	乳白粒	心白粒	腹白粒	背白粒	基部未熟粒
					
白色不透明部分の大きさが一定以上のものが白未熟粒とされます					

○高温時のかけ流し、および夜間かん水等による地温低下

- ・出穂後の水管理は通常は間断かんがいであるが、高温が続く場合、用水が豊富な地域ではかけ流しや夜間かん水等を行い、地温を低下させ、根の活力維持を図る。
- ・早期落水は、未熟粒や屑米、胴割れ米、茶米の増加につながるため、出穂後 30 日頃を目安にできるだけ落水を遅らせる。

○実肥の施用

- ・出穂後に極端に葉色が低下している場合は、「背白粒」や「基部未熟粒」が増加するおそれがあるため、実肥（穂揃い期）として、窒素成分で 1kg/10a 程度施用する。
- ・ただし、遅い時期の追肥は、玄米蛋白質含量を高めて食味が低下する。

○適期収穫の実施

- ・刈り遅れは、胴割れ米や茶米等が増加して玄米品質低下の原因となる。
- ・登熟期間が高温で経過すると、予想以上に成熟期が前進することがあるため、出穂後の登熟の進み具合（青味籾率）を随時確認して、早めに収穫作業の準備を行い適期収穫に努める。

◎トビイロウンカの警報が発表されています。＜8月19日発表＞

岡山県病害虫防除所より「トビイロウンカ」に関する病害虫発生予察警報が発表されています。今後 9～10 月の気温は高く推移するとされており、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられます。ほ場を確認し防除に努めましょう。

(1) 基幹防除を徹底

＜穂揃い期の薬剤防除例＞

種類	薬剤例	使用時期 収穫前
粒剤	スタークル粒剤 3 kg/10a	7 日まで
粉剤	ブラシンジョーカー粉剤 DL 4 kg/10a	7 日まで
液剤	ブラシンジョーカーフロアブル 1000 倍 (100L/10a)	14 日まで

(2) 本虫は局所的に生息するため、圃場の中央部まで入りながらなるべく多くの株元をよく観察し、収穫の 1 か月以上前に成幼虫合計が株当たり 10 頭以上、又は中生・晩生種で短翅型雌成虫が株あたり 0.2 頭以上確認された圃場では、直ちに粉剤または液剤で防除を実施する。

(3) 粉剤、液剤の薬剤散布に当たっては、薬剤が株元まで十分到達するよう留意する。
粒剤は粉剤、液剤に比べやや遅効的であるため、湛水状態で早めに散布する。

(4) 薬剤の使用に当たっては、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。なお、特に収穫期が近い場合の薬剤散布は、農薬使用基準の収穫前日数をよく確認して行う。

<応急防除薬剤例>

薬剤名 使用量又は倍率	使用時期 収穫前	使用薬剤の 使用回数
トレボン粉剤 DL 4 kg/10a	7 日前まで	3 回以内
スタークル粒剤 3 kg/10a	7 日前まで	3 回以内
スタークル豆つぶ 250g/10a	7 日前まで	3 回以内
スタークル顆粒水溶剤 3000 倍 60~150ℓ/10a	7 日前まで	3 回以内

(有効成分を含む農薬の総使用回数にご注意ください)

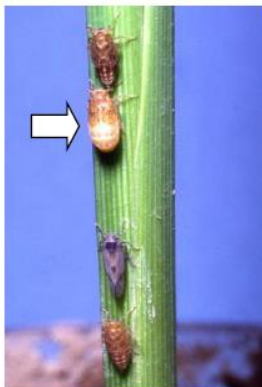


図1 成虫（体長約5 mm、株元に集中して生息）
（矢印は短翅型雌成虫）

図2 圃場の被害（坪枯れ）